

Retek® Data Warehouse 10.0



リリースノート



企業本部

Retek Inc.
Retek on the Mall
950 Nicollet Mall
Minneapolis, MN 55403

888.61.RETEK (toll free US)
+1 612 587 5000

本マニュアルで説明されるソフトウェアは、ライセンス契約のもとに提供され、その契約条件に従う場合にのみ使用できます。

本マニュアルの全部または一部を、Retek Inc. (Retek on the Mall, 950 Nicollet Mall, Minneapolis, MN 55403) の書面による明示的な許諾なくして複製または配布することはできません。

欧州本部

Retek
110 Wigmore Street
London
W1U 3RW
United Kingdom

電話番号 (代表)
+44 (0)20 7563 4600

セールス窓口
+44 (0)20 7563 46 46
Fax: +44 (0)20 7563 46 10

本マニュアルの情報は予告なく変更されることがあります。

Retek は内容の保全を図るため、製品資料を読み取り専用フォーマットで提供します。Retek カスタマサポートは、Retek の許可なく変更された資料についてはサポート致しかねます。

Retek® Data Warehouse™ は、Retek Inc. の商標です。

Retek、および Retek のロゴは、Retek Inc. の登録商標です。

©2002 Retek Inc. All rights reserved.

Retek 日本オフィス

〒107-0061
東京都港区
北青山 3-6-7
青山パラシオタワー 11F
+81 (0)3 5778-7620
Fax: +81 (0)3 5778-7640

本マニュアルで言及されている他の製品名はすべて、各社の商標または登録商標であり、それに準じた取り扱いをする必要があります。

米国にて印刷。

カスタマサポート

カスタマサポート時間帯:

中央標準時 (GMT-6) に基づく月曜日から金曜日の 8AM ~ 5PM。Retek 社の休業日 (2002 年度は 1/1、5/27、7/4、7/5、9/2、11/28、11/29、12/25) を除く。

緊急時カスタマサポート時間帯:

週 7 日間 (24 時間)。

お問い合わせ方法 連絡先

電話	米国およびカナダ: 1-800-61-RETEK (1-800-617-3835) その他の地域: +1 612-587-5000
FAX	(+1) 612-587-5100
電子メール	support@retек.com
インターネット	www.retek.com/support Retek 社のお客様向け Web サイトです。問題に関する最新の情報を参照することができます。
メール	Retek カスタマサポート Retek on the Mall 950 Nicollet Mall Minneapolis, MN 55403

カスタマサポートにご連絡いただく前に、下記の内容をご確認ください。

- 製品のバージョンおよびプログラム/モジュールの名前
- 具体的、技術的な症状 (業務に与える影響を含む)
- 問題の詳細な再現手順
- 正確なエラーメッセージ
- 問題の操作を確認できるスクリーンショット (手順ごと)

目次

概要	1
機能の強化	1
ローカル通貨レポート	1
リージョン特性	1
仮想倉庫	1
柔軟なセグメンテーション	2
アイテムの差額要因 (差別化)	2
市場データ分析の強化	2
アイテム-取引先-国-ロケーションの関係	2
取引先およびロケーションの更新	3
運搬先/運搬元の詳細	3
供給の週数に対する柔軟性	3
Enterprise の統合	3
テクノロジーに関する強化	4
ソフトウェアの要件と構成マトリックス	5
RDW バージョン 10.0 の既知の制限と問題	7
アイテム追跡レベル	7
アイテムリスト	7
競合他社の価格設定 (1 つの親アイテムに対する複数の子)	7
競合他社の価格設定 (ソースデータの履歴の削除)	8
プレゼンテーション方法	8
13 期間カレンダー	8
取引先の受取	9
RDW 10.0 と共に使用するツールに関する既知の問題	10
MicroStrategy 7.1.4	10
DB2 - 小数除算誤差	10
Teradata - 複合メトリックに対してゼロが返る	10
Teradata - 不適切なカラム参照	11

概要

RDW 10.0 は一般に入手可能なリリースであり、RDW 9.1 リリースを技術的および機能的に大幅に強化しています。RMS 10.0 リリースで基本部分に重要な変更が行われたため、RDW 10 には Retek Merchandising System との連携を維持するために必要な変更が加えられています。他の Retek 10.0 製品 (Retek Top Plan、Retek Sales Audit、Retek Customer Order Management、Retek Invoice Matching など) とのインターフェイスをサポートするための変更も実施されています。RDW バージョン 10.0 は、機能上の変更だけでなく、データベースに依存しないアーキテクチャとなるように見直されています。

機能の強化

RDW バージョン 10.0 の新機能を次に示します。

ローカル通貨レポート

ローカル通貨レポートの強化にあたっては、ローカル通貨と最優先通貨の両方を維持することに重点が置かれ、実際の売り上げは販売時の通貨で、売り上げのレポートは最優先通貨でそれぞれ表示できるようになりました。このようにローカル通貨の用途を拡大したのは、顧客の配属先や担当地域などのロケーションに関係なく、RDW の機能を余すところなく提供し、すべてのレポートを顧客に提出するという機能的な必要性から生じています。従来のローカル通貨レポートは、実行時に通貨の変換を通して行われ、一部の基礎レポートに制限されていました。新しいプロセスでは、大半の通貨単位を、最優先通貨とローカル通貨の両方に変換し、RDW で使用できるよう強化されています。Top Plan から取得された通貨単位は、今回の 10.0 リリースのみ、最優先通貨になります。

リージョン特性

リージョン特性のコンセプトは、1 つ以上のカテゴリに基づいてロケーションのサブセットをグループ化し、そのグループに特定の役割 (または企業内部門) を割り当てる機能に重点が置かれています。これらの役割を RDW で使用するには、対応する役割が RMS (ソースシステム) 側で定義されている必要があります。RDW ユーザーは、レポートを役割ごとにフィルタリングすることで、その役割に割り当てられたカテゴリとロケーションのデータを含むレポートだけを得ることができます。

仮想倉庫

仮想倉庫は、RMS 10.0 で提供されるマルチチャネル機能の一部であり、一意のロケーションタイプ識別子を持つロケーションとして追加されています。仮想倉庫ロケーションは、RDW 側ではロケーションタイプによって識別され、倉庫タイプのロケーションと同等の機能が与えられます。RDW 10.0 には、仮想倉庫に保管された在庫として表示する機能が用意されています。

柔軟なセグメンテーション

RDW 10.0 は、製品のサブセットや組織レベルごとに顧客をセグメント化する機能を使用して、最新購入日、購買頻度、購入金額、利益のレポートに関するセグメンテーション機能が強化されています。フィルタ基準選択により、企業レベルに比べて、小規模なデータに対しセグメンテーションを実施することが可能になります。さらに、ユーザーは、取得するセグメント数を指定できます。

アイテムの差額要因 (差別化)

RDW には、RMS の差額要因 (差別化) および差額の構成が取り入れられています。差額の構成では、2 つの要素からなる差額を 1 つのエンティティ (30 x 32) として定義したり、2 つの別の構成 (30 と 32) として定義することが可能です。このような改良が RDW に加えられたことにより、差別化を通じて製品の柔軟性を高めることができるようになりました。

市場データ分析の強化

RDW 10.0 リリースには、市場データから得られる情報に基づいて製品の "好機誤差" を分析するための機能が追加されています。好機誤差とは、特定のカテゴリのマーケットシェアと、全カテゴリの組み合わせに対する総合的なマーケットシェアとの間に生じる誤差を指します。今回のリリースでは、週ごとの最新の市場データを示す "有効日" が追加されています。

アイテム-取引先-国-ロケーションの関係

Retek Merchandising System は、[取引先] ダイアログボックスに大幅な変更が加えられ、情報をアイテム-取引先-国-ロケーションレベルにまで明細化して保存できるようになりました。RDW には、アイテム-取引先-国-ロケーションレベルで原価を表示し、より下位のレベルで指定された主要取引先を識別するための機能が盛り込まれています。従来はアイテム-取引先レベルで保管された主要取引先の情報が抽出されていましたが、このことにより主要取引先のレポート機能が変わることになります。RDW 10.0 において、主要取引先とは、アイテム-取引先-国-ロケーションレベルの主要取引先を指します。また、RDW 10.0 において、原価とは、アイテム-取引先-国-ロケーションレベルで保持された主要取引先の原価を指します。

取引先およびロケーションの更新

取引先およびロケーションのエリアを強化するため、次の変更が行われました。

- [一次面積合計]。ロケーションレベルで追加された属性で、店舗に該当する合計一次面積を表します。
- [VMI 取引先]。取引先レベルで追加された属性で、取引先とメーカー主導型在庫管理とが関連付けられているかどうかを表します。
- [主要取引先の在庫切れ]。アイテム-取引先-国-ロケーションの関係の強化に合わせて追加された機能です。これにより、RDW は、取引先の在庫切れ状況を把握することが可能となります。[在庫切れ] は、アイテム-ロケーションレベルで手持ち在庫がゼロのときに発生します。
- [取引先の受取]。アイテム-取引先-国-ロケーションの関係の強化に合わせて追加された機能です。取引先遵守度を評価するための RDW の機能の一部として、取引先からの入荷を確認するための入荷レポート機能が追加されました。
- [取引先インボイス原価]。RDW には、取引先の原価を表示するための機能が追加されました。発注側の原価 (RMS に格納) とは対照的に、インボイス上の請求金額 (ReIM に格納) を表します。

運搬先/運搬元の詳細

今回のリリースには、運搬詳細の拡張により、運搬元と運搬先のロケーションを表示するための機能が提供されています。

供給の週数に対する柔軟性

RDW 10.0 では、供給の平均週数を計算するときに、エンドユーザーが、平均化する週数を指定できるようになりました。

Enterprise の統合

RDW 10.0 リリースのアーキテクチャには、Retek Merchandising System、Retek Top Plan、Retek Sales Audit、Retek Customer Order Management、Retek Invoice Matching とのインターフェイスがサポートされています。これらのアプリケーションと完全に統合することもできますが、一部だけ統合して実装することも、完全なスタンドアロンモジュールとして実装することもできます。

テクノロジーに関する強化

RDW のバージョン 10.0 には、アーキテクチャに関する重要な変更が行われています。RDW の新しいアーキテクチャのコアは、RDW 抽出/変換/ロード (ETL) を特定のデータベースからは独立したフレームワークにカプセル化することによって成り立っています。これは、新フレームワークを使用した RDW ETL コードを記述することによって実現しました。この新しいフレームワークは、大規模なデータを扱う、高性能なビジネスインテリジェンスアプリケーションを開発し、配置するための環境とインフラストラクチャを提供します。マルチプロセスシステムで動作し、並列コンピュータテクノロジーを利用した、大規模なビジネスインテリジェンスアプリケーションに求められる性能とスケーラビリティを達成することができます。

アーキテクチャに加えられた変更により、データベース要素は次のような影響を受けました。

- ディメンショナルトリガがすべて削除されました。
- Dimensional Modification (MD) テーブルがすべて削除されました。
- Atomic (AT) テーブルがすべて削除されました。
- すべての Restart および Recovery オブジェクトが RDW 側から削除されました。
- RDW パッケージとプロシージャがすべて削除されました。

注: DWI ファクト関連データベースオブジェクトは変更されません。

- Pro*C のバッチアーキテクチャおよび RDW 側のコンポーネントはすべて削除され、新しい RDW ETL コンポーネントに置き換えられました。詳細については、オペレーションガイドおよび RIB-ETL のプログラマーズガイドを参照してください。

また、RDW 10.0 は、MicroStrategy のバージョン 7.1.4 を使用して開発されています。詳細については『フロントエンド機能ガイド』を参照してください。

ソフトウェアの要件と構成マトリックス

RDW 10.0 の構成マトリックスには、このリリースで現在サポートされている構成が記載されています。サポートされていない構成が必要になった場合は、Retek カスタマサポートまでご連絡いただき、最新のサポート情報を確認してください。

データベース*	ハードウェアプラットフォーム / オペレーティングシステム (ターゲットデータベースサーバー)**	ハードウェアプラットフォーム / オペレーティングシステム (ソースデータベースサーバー)	ロードサーバー	ETL ツール (指定データベースの各ハードウェアプラットフォームと各オペレーティングシステムに対するバイナリコンパイル済みのファイルのみ)
IBM DB2 Universal Database - Extended Enterprise Edition 7.2 (32 ビット)	AIX 4.3.3	RMS 10.0 に対するオプションのインターフェイス。Data Warehouse Interface (DWI) 環境を含みます。RMS ドキュメントの推奨ガイドラインを使用してください。スタンドアロンソースの場合、サーバーの要件はありませんが、API のガイドラインに従う必要があります。		サポートハードウェアプラットフォーム上の RIB ETL 1.7 for DB2
NCR Teradata V2R4.0 または R4.1	WorldMark 5xxx シリーズ – UNIX WorldMark 4xxx シリーズ – UNIXS2x シリーズ – UNIX	RMS 10.0 に対するオプションのインターフェイス。Data Warehouse Interface (DWI) 環境を含みます。RMS ドキュメントの推奨ガイドラインを使用してください。スタンドアロンソースの場合、サーバーの要件はありませんが、API のガイドラインに従う必要があります。	Sun Solaris 8 HP-UX 11i AIX 4.3.3	サポートハードウェアプラットフォーム上の RIB ETL 1.7 for Teradata。RIB ETL アプリケーションは、Teradata ロードユーティリティと共にロードサーバー上で動作します。

データベース*	ハードウェアプラットフォーム / オペレーティングシステム (ターゲットデータベースサーバー)**	ハードウェアプラットフォーム / オペレーティングシステム (ソースデータベースサーバー)	ロードサーバー	ETL ツール (指定データベースの各ハードウェアプラットフォームと各オペレーティングシステムに対するバイナリコンパイル済みのファイルのみ)
Oracle RDBMS Enterprise Edition と Partitioning Option 9.0.1.2 (64 ビット)	Sun Solaris 8 HP-UX 11i AIX 4.3.3	RMS 10.0 に対するオプションのインターフェイス。Data Warehouse Interface (DWI) 環境を含みます。RMS ドキュメントの推奨ガイドラインを使用してください。スタンドアロンソースの場合、サーバーの要件はありませんが、API のガイドラインに従う必要があります。		サポートハードウェアプラットフォーム上の RIB ETL 1.7 for Oracle

注:

*データベースのマニュアルで、最低限のガイドラインと要件を確認してください。

** その他の構成については、Retek カスタマサポートにお問い合わせのうえ、最新の情報を確認してください。今後のサポートについては需要に応じて決定させていただきます。サポートにあたってのテストが必要になります。

*** HP-UX 11i は、ご希望に応じて利用することができます。

データウェアハウスサーバーに対するその他のソフトウェア要件を次に示します。

- MicroStrategy 7.1.4
- RDW Web 2.2
- Oracle Pro*C Precompiler 9.0.1 (ソースサーバーのみ)

RDW バージョン 10.0 の既知の制限と問題

アイテム追跡レベル

アイテムファミリには、追跡レベルが定義されている必要があります。追跡レベルは、ライン、ライン拡張、バリエーションのいずれかのレベルを、売り上げ、在庫、価格設定などの取引が発生するレベルにするかどうかを決定します。アイテムファミリに指定できる追跡レベルは 1 つだけです。アイテムファミリの追跡レベルをバリエーションにした場合、そのファミリに含まれるすべてのアイテムには、バリエーションの追跡レベルが指定されます。新しいアイテムファミリをドリルダウンする機能は、関連する商品や組織階層をドリルダウンする機能と同様の、不可欠の機能と考えられるようになりました。ロールアップは、次第に高いレベルの製品階層で実行されていくため、取引情報が複数レベル間で結びつくことはありません。たとえば、100 個のアイテムを含むクラスがあって、そのうちの 25 個がラインレベルで、別の 25 個はライン拡張レベル、残りの 50 個はバリエーションレベルでそれぞれ追跡するとき、売り上げをバリエーションレベルで合計すると、バリエーションレベルで追跡された 50 個のアイテムに対する売り上げだけが得られることになります。売り上げをライン拡張レベルにまでロールアップすると、75 個のアイテムの売上合計値が得られ、さらに上のレベルにロールアップすると、100 個すべてのアイテムの売上合計を得ることができます。

アイテムリスト

アイテムリストの機能を RDW で使用するには、追跡レベルのアイテムだけが含まれている必要があります。非追跡レベルのアイテムで構成されるアイテムリストは、RDW で使用した場合、データを返しません。アイテム追跡レベルに関する詳細については、前出の説明を参照してください。

競合他社の価格設定 (1 つの親アイテムに対する複数の子)

RMS の競合他社価格設定リストは、特定のロケーション/日付に対して追跡レベル下の複数の "子" アイテムを対象にできるのに対し、RDW では、特定のロケーション/日付に対して "子" は 1 つしか保持できません。この制限の目的には、追跡レベルに価格を維持することと、特定の競合他社価格を、対応する直営ロケーション価格に一致させなければならないという背景があります。RDW は、競合他社の価格設定レコードを、最優先サブ取り引きレベルアイテムとして指定される RMS のサブ取り引きレベルアイテムに関連付けます。この機能には、RDW の競合他社価格設定トリガが正しく機能しないという、既知の欠陥があります (RDW PI#53937)。追跡レベルか、追跡レベル以下にあるアイテム (ただし `primary_ref_item_ind = 'Y'` の場合) だけを、競合他社の価格設定レコードとして取得しなければならないためです。

競合他社の価格設定 (ソースデータの履歴の削除)

RMS では、競合他社の価格設定レコードを削除できるのに対し、RDW の ETL コードは、RDW の対応するファクトレコードを削除しません。クライアントは目的のレコードを更新したり、後々のために、修正済みの競合他社の価格ファクトを保持するための新規レコードを挿入したりする必要があります。レコードを削除したにもかかわらず更新しなかった場合、削除された価格は、オリジナルの入力日 (価格削除日) から次の入力日 (価格更新日) まで毎日、競合他社の価格 (price of) レコードとして記録されます。

プレゼンテーション方法

プレゼンテーション方法に対する顧客の要件をサポートするにあたって、RMS 側の設計上の問題が、RDW にプレゼンテーション方法を抽出する条件に制約を課しています。具体的には、item_supp_centry_dim_md 上の dim_object が 'ea' (each) であるレコードについてしかプレゼンテーション方法属性が追加されません。また、売り上げはアイテムの属性である点に注意してください。アイテムを供給する特定のベンダーに対する属性ではありません。たとえば、同じ UPC またはバーコードを持つアイテムを 2 つの取引先が提供する場合、アイテム-ロケーションに、複数の取引先が割り当てられていても、対応するアイテム-ロケーションに割り当てられた、それぞれの取引先に属するアイテム-ロケーションの売上合計だけを得ることができます。取引先属性についても同じロジックが適用されます。

13 期間カレンダー

RDW には、期間カレンダー機能に 2 つのオプション (4-5-4 暦および 13 暦) が用意されています。会計 4-5-4 カレンダーは、RMS および他の Retek アプリケーションがサポートするカレンダーであり、RMS からの抽出により RDW で入力されます。4-5-4 カレンダーは、RDW の MicroStrategy 中間層を介して時間ディメンションを表示するときに使用される既定カレンダーです。

13 期間カレンダーは、この GA 製品で新たに導入されたものであり、RMS ではサポートされていません。クライアントが、RDW で、4-5-4 カレンダーの代わりに 13 期間カレンダーの使用を選択した場合、クライアントは 13 期間時間によるフラットファイルを提供するか、サンプルの 13 期間時間フラットファイルを使用できます。RDW インストールの間に、ETL スクリプトには、このファイルによる時間ディメンションが含まれます。クライアントが 13 期間時間を使用している場合は、RDW の『中間層インストールガイド』を参照してください。RDW のフロントエンドに 13 期間カレンダーを実装する方法が説明されています。

クライアントによってロードされる時間区分に関係なく、インストール後に、期間カレンダーディメンションに対して時間を追加することが可能です。

取引先の受取

マルチチャネル環境では、この機能に既知の欠陥 (RDW PI#54002) があります。出荷物を仮想倉庫で受け取るとき、ORDLOC 表からロケーションをフィルタリングするにあたって、DWI モジュール `scrqtl.dat.pc` が、間違って SHIPMENT.TO_LOC (SCMP_RCPT_ITEM_LD_MD 表で保持される) を使用します。SHIPMENT.TO_LOC には物理倉庫だけが含まれ、ORDLOC には仮想倉庫しか含まれないため、駆動カーソルがデータを取得できません。そのため、仮想出荷の受け取りで、取引先遵守度データマートが入力されません。

RDW 10.0 と共に使用するツールに関する既知の問題

MicroStrategy 7.1.4

- 現在、N-Tile Ranking 関数には、既定の Metric レベルで Set を評価するためのオプション ([フィルタ設定条件] や出力レベル指定など) がありません。出力レベルは、break by オプションよりも頻繁に使用されます。これは、MicroStrategy Case # 148054 の機能強化として記録されています。
- 非表示階層フィルタが、デスクトップアプリケーションの終了後に解除されます。これにより、デパートメントから取引先にドリルするときに、フィルタが表示されてしまいます。これは、適切な動作ではないため、MicroStrategy Case #140264 に欠陥として記録されています。

DB2 - 小数除算誤差

DB2 では、除算機能によって桁落ちが発生し、精度が失われます (MSTR Case# 156493、Enhancement Case # 157845)。

「[IBM Technote](#)」および「[MSTR Technote](#)」を参照してください。

RDW 10 (DB2)

分母が Decimal(18,2) にキャストされるよう、database.pds ファイルが更新されました。

```
<FUNCTION_REF ID="8107C33FDD9911D3B98100C04F2233EA"
SQLPATTERN="(CASE #0 WHEN 0 THEN NULL ELSE CAST(#0 AS
DECIMAL(18,2))END)" />
```

Teradata - 複合メトリックに対してゼロが返る

Teradata の Count 関数は整数を返します。2 つの整数を除算すると整数が返され、分子が分母より小さい場合にゼロが返されます (MSTR Enhancement Case # 157845)。

「[MSTR Technote](#)」を参照してください。

RDW 10 (Teradata)

分母が Decimal(18,2) にキャストされるよう、database.pds ファイルが更新されました。

```
<FUNCTION_REF ID="8107C33FDD9911D3B98100C04F2233EA"
SQLPATTERN="(CASE #0 WHEN 0 THEN NULL ELSE CAST(#0 AS
DECIMAL(18,2))END)" />
```

結合テーブルの検索条件に不適切なカラム参照が取得されます (Teradata: MSTR Case # 157987)。

RDW 10 (Teradata)

Database Instance Level の VLDB プロパティが Join 92 に更新されました。

Teradata - 不適切なカラム参照

結合テーブルの検索条件に不適切なカラム参照が取得されます (Teradata: MSTR Case # 157987)。

RDW 10 (Teradata)

Database Instance Level の VLDB プロパティが Join 92 に更新されました。